

マルチメディア時代のデジタルの眼

Digital Eyes for the Multimedia Era

甲斐 実
KAI Minoru

自動車の後ろにカメラが付いていれば駐車場に入れやすいのに、ラジコン飛行機にカメラが付いていたらどんなに楽しいただろう、見たいところに眼があったらいいな、という思いを抱いた経験は一度はおもちでしょう。私がフレッシュマンだったころはこれは遠い将来の夢でした。当時、当社が世界で初めて実用化した、撮像管方式の本格的民生用カラービデオカメラは重さ3kgもあり、交流100Vを必要とするしろものだったのです。それがCCD(電荷結合素子)が実用化されると瞬く間に小型化され、今やその心臓部であるカメラモジュールは重さ7g、大きさ30mm角が実現し、コストも2けた近く下がるという大進化を遂げ夢の実現にあと一步と迫ってきました。

そのためには大事な条件のクリアが必要です。今後、デジタルカメラや携帯端末、ノートパソコンなどの個人モバイル機器に搭載されることになる映像センサは、消費電力の少ないことが不可欠となります。ここで注目されて登場したのがCMOSセンサです。消費電力がCCDの1/10であり、単一電源で動作する(CCDは3電源必要)など要求にぴったりの特長をもっています。さらにセンサ部とアンプ部をワンチップに載せることができ、CCDでは困難なワンチップカメラも実現できます。世界中のメーカー、大学、研究機関がこぞって開発を進めている中で当社はいち早く独自の技術で実用化に成功し、これを搭載した民生用デジタルスチルカメラの量産をすでに始めています。

インターネット、携帯電話の普及に代表される新しい通信インフラの整備や半導体技術の進歩、MPEG4 (Moving Picture Experts Group 4) などの画像通信プロトコルの構築など画像情報通信があたりまえになる時代への準備が進められる中で、当社内でも部品事業とシステム事業が協力して新しいビジネスを切り開いていく形ができて始めています。

当社のCMOSセンサが、新しい時代をしっかりと見据える“デジタルの眼”として、また“夢”を実現するのに最適な機能部品としてつねに他社をリードしながら発展を遂げていくよう、皆で支えていきたいと思えます。